

# 「南アジア地域における地震防災対策計画」に対する無償資金協力

《国際復興支援プラットフォームを活用し、貧困と災害の悪循環を断ち切り、持続可能な開発へ》

## 背景・目的

日本

防災協力は、我が国が他の先進国にない比較優位の知識・技術を有する分野であり、顔の見える国際貢献の重要な柱

提案



国連防災世界会議（2005年1月、神戸）

国際社会における防災活動の指針として「兵庫行動枠組」(HFA)採択

## 災害復興時の取組（南アジア等）

現状：日干レンガ建築物による繰り返される地震被害、洪水・津波危険地域への居住地拡大等

復興過程で、次の災害に備え、地域の防災力を強化し、持続可能な開発につなげるための国際社会全体での連携した取組が必要

## 小泉総理(当時)開催国ステートメント

☆会議成果の実施とフォローアップの重要性強調

- ①ODAを活用した防災協力イニシアティブ
- ②アジア防災センター(ADRC)を通じた地域防災協力の強化
- ③国際復興支援プラットフォーム(IRP)等の国際レベルの連携プロジェクトの推進

上記日本提案も採用

国際復興支援プラットフォーム(IRP)発足：日本のイニシアティブによる国連機関(UNDP)等との連携プロジェクト

UNDP(リーディングエージェンシー)提案

パキスタン地震等南アジア地域は、自然災害のホット・スポット

SAARCにおいては、防災が喫緊の課題

防災は、我が国の南アジア地域協力連合(SAARC)活動支援の柱のひとつ

## 概要

期間：2年

対象国：インド、パキスタン、ブータン、ネパール、バングラデシュ

## 活動

地震災害のリスク評価

耐震建築ガイドライン等の導入、耐震建築研修

政府機関に対する、災害復興に向けた事前準備

各国固有の地震リスク軽減に向けた支援

復興に関する情報、教訓、優良事例の共有

## 特徴

日本の「経験」、「知見」を活用した(=日本の顔が見える)援助

国連ネットワークにより同種の課題を持った複数国に同種プログラムを実施

## 効果

マルチとバイの両スキームのメリットの兼ね備え

- 災害脆弱国の災害リスクの軽減、持続可能な開発への寄与
- HFAを具体化する国際連携プロジェクトの推進に大きく貢献